

第31回豊川の明日を考える流域委員会 議事概要

豊川の明日を考える流域委員会事務局

日時：平成20年12月19日（金） 15:00～17:30

場所：豊橋商工会議所 9F 大ホール

1. 開会挨拶（中部地方整備局豊橋河川事務所長）

2. 議 事

1) 河川整備計画に基づく河川整備の実施状況について

河川整備計画に基づく河川整備の実施状況について、配布した資料及びそのパワーポイントに基づき事務局から説明した。各委員からのご意見等は次のとおり。

- (1) 豊川流況総合改善事業について、水がない季節に水を流すということは、かえって自然の生態系を変えてしまい、悪影響が出るのではないか。
人があまり水を利用しなかった時代は、渇水期にそんなに水はいつも流れていたのか。
 - ・従来は河川水が豊富にあったが、高度に利用した結果、水涸れが発生するようになり、河川の生態学的な見地からもある程度の流量を流すべく事業を実施している。
 - ・流れていた。人為的な取水がなかったら、水涸れをしない。
- (2) 主な災害支援活動の中に出てくる、リエゾンなど、一般の人にわかりやすい言葉にしてほしい。
- (3) 自然再生のヨシ原再生は、どのような効果があったのか。
 - ・モニタリングを継続中であり、結果はまだでていない。
- (4) 大村地区の堤防補強付近の河川敷は、自然環境が良好であるが、整備に関して考え方はあるか。
 - ・死水域で繁茂している竹を伐採するが、潜在植生のムクノキ・エノキは残したい。
- (5) 安全な河川敷利用のための活動として、バギーや水上バイクなどが例示されている。こういうものを河川利用と考えていいのか。
 - ・ボート、マウンテンバイクなどの利用は自由使用の範疇であるが、公共の場であり、排他的な利用は出来ない。また、騒音・迷惑行為に対しては、パトロールで指導している。

2) 設楽ダム建設事業再評価について

- (6) 農業生産額は落ちているとあるが、これから増えることがあるのか。水道も人口が減っ

ている。この経済状況で、計画を見直すことはないのか。

- ・農業生産額が落ちているのは市場価格の影響もある。生産量が落ちているわけではない。
- ・灌漑・水道などの利水は、一時的な経済の落ち込みを見るのではなく、遠い将来を見越して計画を策定している。

(7) 洪水調節で $550\text{m}^3/\text{s}$ や $1,000\text{m}^3/\text{s}$ 低下できるとあるが、‘洪水調節容量が空’ という理想的な条件であり、前提条件をしっかりと記載すべきである。

- ・連続的な降雨があっても設楽ダムはゲートがないので、長時間たてば自然に水位は下がり、洪水調節容量は空の状態になる。
- ・最大の効果を示している。降雨パターンがいろいろあるなかで洪水調節をしている。

(8) 設楽ダムの計画を超える雨やゲリラ豪雨が降ったらどうなるのか。

- ・計画を超える雨が降った場合は、流入量と放流量が同じになる。そのような場合でも流入量＝放流量となるまでの間、洪水調節を行い、ピーク流量を低減する効果や時間的にピーク流量の時刻を遅らせることで下流の住民が避難する時間を確保する効果を発揮する。

(9) B/C の計算において不特定の効果、残存価値はどうやって算定しているのか。

- ・不特定については、流水の正常な機能の維持のもたらす環境の評価手法がまだ確立していないため、ダムの建設費の中で不特定に投資する額をそのまま効果として計上している。
- ・残存価値は土地代・ダム本体の価値が再評価期間末の 50 年後にどれくらい価値があるかを算定している。

(10) 水没する 120 世帯の補償があるが、全員設楽町に残るのか。

- ・個々の世帯と協議中である。

(11) 設楽ダムの問題は、河川・ダム・環境の問題があって非常に難しい。大変な苦労の上になりたっている。新しい環境の問題、成熟化時代、人口の変遷、水の利用、技術、リサイクルがあるなかで百年の計で議論していくのだと思う。

(12) 上流水源地でも下流でも、設楽ダム建設でさまざまな問題がある。35 年経過して今節目に入った段階だと思う。前回の委員会でやめた中村委員が「みなさんに喜ばれるような設楽ダムをつくり、東三河の発展を祈って」との言葉が印象的であった。国・県と信頼しあってやって行きたい。

(13) 設楽ダムの再評価については、承認する。

3. 閉 会

以 上